

## 基準 9. 教育研究環境

基準 9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス(校地、運動場、校舎等の施設設備)が整備され、適切に維持、運営されていること。

(1) 9-1 の事実の説明(現状)

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

ア. 本学の校地面積は 41,033.29 m<sup>2</sup>であり、その内運動場面積は 4,504.00 m<sup>2</sup>である。(駐車場、寮等の付帯施設面積を除く)

イ. 校舎面積は 15,812.29 m<sup>2</sup>であり、講義室：25 室、演習室：4 室、実験実習室：32 室情報処理学習室：1 室、語学学習施設：1 室(情報処理学習室と共用)を有している。なお、図書館は 3 号館 2 階に設置され、面積は 726.73 m<sup>2</sup>となっている。

ウ. 施設・設備については、設置計画予算に基づき整備を行ってきたが、老朽化や学生数増大への対応に支障が予見されたため、平成 21(2009)年 7 月に文科省に対し設置計画の変更協議を行って認可を受け、緊急対策工事・設備購入を行った。(内容は各項で説明)

エ. 表 9-1-1 「主要施設一覧」に主要施設一覧を示す。

表 9-1-1 主要施設一覧

名称	建築名	構造	延面積(m <sup>2</sup> )	登記年月日	主要施設
1号館	本館・衛生技術学科棟	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	6,579.14	平成 13年 8月 20日	事務室・学長室・学部長室・講義室・コンピューター室・演習室・実習室・研究室
2号館	看護学科棟	鉄筋コンクリート造陸屋根 4階建	1,625.77	平成 3年 3月 4日 平成 12年 2月 10日移記	講義室・演習室・研究室
3号館	放射線技術学科棟・図書館	鉄筋コンクリート造陸屋根 4階建	4,068.34	平成 18年 2月 24日	駐輪場・ロッカー室・図書館・講義室・放射線実験室・研究室
4号館	講堂	鉄筋コンクリート・鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	628.52	平成 13年 8月 20日	講義室・講堂
5号館	旧 R2 号館	鉄筋コンクリート造陸屋根 4階建	1,301.86	昭和 60年 11月 21日 平成 2年 4月 4日 平成 5年 10月 21日移記	学生ホール・リニアアクセラレーター室・放射線実験室・講義室・研究室
6号館	旧図書館	鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	419.08	平成 7年 11月 28日	講義室
7号館	旧 R1 号館	軽量鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	975.80	昭和 52年 7月 25日 平成 12年 2月 10日移記	助手室・倉庫
寄宿舍	清心寮	鉄筋コンクリート造スレート陸屋根 4階建	2,687.53	昭和 60年 5月 10日 平成 5年 10月 21日移記	食堂・売店・寄宿舍
車庫	車庫	軽量鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	43.42	平成 15年 1月 27日	
倉庫	庶務課倉庫	軽量鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	50.76	平成 15年 1月 27日	
倉庫	施設課倉庫	軽量鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	40.70	平成 15年 1月 27日	
集積場	寮ゴミ置場	軽量鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 平屋建	7.20	平成 15年 1月 27日	

### ■図書館

ア. 現在の図書館は、平成 18(2006)年 4 月に岐阜医療科学大学開学に合わせて新築された鉄筋 4 階建の放射線技術学科棟 2 階に、新図書館として開館したものである。床面積は 727 m<sup>2</sup>で旧図書館(床面積 419 m<sup>2</sup>)より 1.7 倍以上の広さとなった。平成 22(2010)年度より学生証の IC カード化に伴い、自動入館管理システムを導入した。このシステムを使って入館者数の管理ができるため、入館時に学生証を提示する必要がなくなった。退館ゲートではブックディティクションシステム(平成 11(1999)年度導入)により、資料の無断持出による紛失を防止している。

イ. 館内 2 ヶ所に掲示板を設置し、新刊案内や休館日の連絡など利用者への種々の案内が

スムーズにできるようになっている。

ウ. 閲覧スペースは 278 m<sup>2</sup>で座席数は 132 席ある。

エ. 書庫スペースは 329 m<sup>2</sup>あり収容能力は約 8 万冊である。書架側面の蔵書分類パネルの文字を大きく見やすくし、館内に日本十進分類法網目表を掲示することで、利用者に資料の所在が分かりやすいようになっている。

オ. AV コーナーは 70 m<sup>2</sup>のスペースに検索用パソコン 7 台と AV 機器 5 台を設置し、資料検索や視聴覚資料の利用が容易にできるようになっている。使用目的が資料・文献の検索であれば、来館者は誰でも自由にパソコンを利用することができる。データベースとしては、「医学中央雑誌 Web 版」、「最新看護索引 Web」、平成 22(2010)年 4 月より契約した「メディカルオンライン」、「JDreamII」に加え「Web OPAC」が利用できる。また、文献複写用にカラー対応のコピー機が平成 18 年 4 月から設置されている。

カ. 新聞は平成 21(2009)年度より毎日・読売新聞の購読を開始し、岐阜・中日・朝日・日本経済新聞、AsahiWeekly と合わせて全部で 7 紙を購読している。

キ. 平成 22(2010)年度の蔵書数は、図書 48,477 冊(製本雑誌・紀要含む)、視聴覚 1,623 点である。看護学・臨床検査学・放射線学などの医療関係の専門資料が揃っている。雑誌も医療関係を中心に、和雑誌 104 種類、洋雑誌 47 種類を定期購読しており、電子ジャーナルは 17 種類が利用できる。

ク. 図書館で収集している資料は、一般市民にも広く開放しており、医療関係者を中心に利用されている。利用希望者には、身分証明証(運転免許証など住所が確認できるもの)を提示してもらい、図書館利用カードを作成している。

**表 9-1-2** 蔵書冊数 (平成 23(2011)年 3 月 31 日現在)

和書	洋書	視聴覚資料	合計
40,045	8,432	1,623	50,100

※製本雑誌・製本紀要含む

ケ. 平成 20(2008)年度の蔵書冊数は 47,070 冊、平成 21(2009)年度は 48,012 冊である。平成 22(2010)年度は図書館資料の更なる充実を図ることができた。

**表 9-1-3** 図書受入冊数・雑誌受入種類数 (平成 23(2011)年 3 月 31 日現在)

区分	和				洋				総合計
	購入	寄贈	製本	合計	購入	寄贈	製本	合計	
図書	1,439	91	257	1,787	16	1	160	177	1,964
雑誌	104	30		134	47	4		51	185

※視聴覚資料除く

コ. 平成 22(2010)年度の開館日数は 264 日であり、利用者数は学内 36,861 人、学外 179 人の計 37,040 人であった。貸出資料数は 5,251 点、文献複写使用件数は 1,656 件であった。

表 9-1-4 図書館開館時間

平日(月～金)		土曜日		日曜・祝日
授業期間	長期休暇	授業期間	長期休暇	
9:20～ 19:00	9:20～ 16:30	9:20～ 12:00	9:20～ 12:00	休館

サ. 協議会関係では、東海地区大学図書館協議会、私立大学図書館協会西地区部会、私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会、岐阜県大学図書館協議会に加盟している。

#### ■体育施設

- ア. 7号館北にグラウンド、正面入り口通路西側にバスケットコートを設置しており、これらの施設は体育授業及び学生の課外活動の場として利用している。
- イ. 6号館東側教室を体育室として運用し、体育の授業や課外時間には学生のレクリエーションや卓球、ダンス等の練習に活用されている。
- ウ. 大学祭の体育大会の折には、車で 10 分弱の位置にある関市の中池スポーツ施設(陸上トラック、テニスコート、野球場、体育館、多目的広場等)を利用する。
- エ. 体育館は神野学園内の一校で、近隣に所在する中日本自動車短期大学との共有施設となっている。

#### ■情報サービス施設

- ア. コンピュータ室には 105 台のパソコンが設置され、授業、演習及び放課後の学習さらに授業評価に利用されている。またコンピュータ自習室には 57 台のパソコンが配置され、基礎ゼミ、各種レポート作成、卒業研究等に利用されている。また専攻科生については、専攻科生の利用する教室に 2 台のパソコンが設置され、各種調査、助産学研究に利用している。コンピュータ自習室は学生証 IC カードにより自由に入室可能で、利用可能時間は正門閉門時間の 20 時に合わせ 19 時 30 分までとしている。
- イ. 学内には 29 ケ所の無線 LAN アクセスポイントを設置しており、学生は自由にインターネット接続が可能である。
- ウ. 従来事務局各課で作成したソフトで行っていた学生管理システムを一元管理する「学務システム」を平成 22(2010)年度から本格導入した。
- エ. 「学務システム」導入に合わせ、教員と学生がそれぞれの履修科目において、Web 上で教材の配信や課題提出、質問のやりとり等が行えるポータルサイトを導入した。現在このポータルサイトは、教員用パソコンのスペックが不足している為、一部の授業での使用に留まっている。しかしながら、利用した授業においては大きな効果をあげており、また、平成 23(2011)年度において、教員パソコンの整備を行う計画であることから、利用している授業の事例紹介等、引き続き教員へ使用研修会を行い、利用拡大を図っていく。

#### ■学生寮

- ア. 全国から集まる学生に対して、女子学生に限定して個室タイプの女子学生寮を大学構内に設置し、寮管理人 2 人が常在して管理に当たっている。定員は 96 人である。
- イ. 平成 22(2010)年度、居室内家具を一新し、また防音及び塗替えの居室壁工事を行い居

住環境の改善を図った。

#### ■実習施設・設備

ア. 各学科には下記のような実習施設・設備を備え、高度な医療教育を行っている。また、卒業研究用、教員研究用としても活用している。

イ. 設備投資については、平成 21(2009)年度までは、大学設置計画予算に基づき厳格な運用を図ってきたが(故障等の緊急投資は設置計画変更協議で対応)、学生の実習上、近年の病院医療設備に対応する必要があり、平成 22(2010)年度からは積極的な設備投資を行っている。また、一部設備は文部科学省平成 22(2010)年度私立大学等研究設備整備等補助金に採択され、資金補助を受け整備を行った。

#### ○平成 22(2010)年度設置主要設備

- ・誘発電位・筋電図検査装置
- ・多項目自動血球分析装置
- ・生化学自動分析装置(文科省私立大学等研究設備整備等補助金採択設備)
- ・凍結組織切片作成装置
- ・密閉式自動固定包埋装置、包埋ブロック作成装置
- ・デジタル X 線 TV 装置(文科省私立大学等研究設備整備等補助金採択設備)
- ・無散瞳眼底カメラ装置
- ・MRI 装置(中古品を購入)
- ・蘇生訓練用生体シミュレータ(文科省私立大学等研究設備整備等補助金採択設備)
- ・人口呼吸器(文科省私立大学等研究設備整備等補助金採択設備)

ウ. 各学科・専攻科主要設備

#### ■保健科学部 衛生技術学科

- ・1号館4階が実習室となっており、臨床検査実習室(4室)、心電図検査実習室、脳波検査実習室、超音波検査実習室、筋電図検査実習室、呼吸機能検査実習室、病態解析実習室を有し、また1号館3階には電子顕微鏡実習室を有している。

○主な設備 (( ) 内は所有台数)

電子顕微鏡(2)、凍結組織切片作成装置(1)、密閉式自動固定包埋装置(1)、包埋ブロック作成装置(1)、呼吸機能検査装置(2)、超音波検査装置(3)、誘発電位・筋電図検査装置(1)、心電図計(3)、脳波計(1)、生化学自動分析装置(1)、全自動電気泳動装置(1)、多項目自動血球分析装置(1)、全自動化学発光酵素免疫測定装置(1)、EIA プレートリーダー(1)、その他

#### ■保健科学部 放射線技術学科

- ・3号館3階が実習室、4階が講義室・実験室となっており、X線室×3室、CT室MRI室、X線TV室、超音波実験室、放射線計測室、電気・電子実験室、一般実験室を有している。また5号館2階には放射化学実験室、放射線計測学実験室を有している。

○主な設備 (( ) 内は所有台数)

一般X線撮影装置(7)、断層撮影装置(1)、マンモグラフィ撮影装置(1)、無散瞳眼底カメラ装置(1)、CT装置(1)、MRI装置(1)、X線TV装置(2)、ポータブル撮影装置(2)、SPECT装置(1)、超音波診断装置(3)、CR装置(1)、画像処理装置(2)、レーザーイメージャー装置(1)、ドライイメージャー装置(1)、自動現像機(2)、リニアアクセラレータ(1)、血液照射

装置(1)、ハンドフットクロスモニター(2)、その他

### ■保健科学部 看護学科

- ・2号館3階及び4階に母性・小児看護学演習室、在宅・精神・地域看護演習室、基礎・成人・老年看護演習室、1号館2階に栄養学実習室を有している。

○主な設備（ ）内は所有台数

- ・母性・小児看護演習室：小児：小児用ベッド(4)、輸液ポンプ(1)、レサシベビー(2)、保育器(1)、バイタルサインベビー(2)、乳児看護実習モデル人形(3)、幼児看護実習モデル人形(2)、母性：助産演習モデル(1)、妊婦触診モデル(1)、多目的実習用新生児モデル(10)、乳房マッサージモデル(19)、胎児発育順序模型(1)、受胎調節指導模型(1)、乳がん教育用視触診モデル(1)、その他
- ・在宅・精神・地域看護学演習室：家庭用ベッドセット(1)、入浴室・シャワー室(1)、洗面・トイレ(1)、応接セット(1)、その他
- ・多目的演習室：家庭用訪問指導用具(44)、訪問用乳児体重計・体重台セット(バネ秤)(43)、訪問用乳児身長計(42)、レーザー粉塵計(1)、沐浴人形“柔”桃子B型(1)、デジタル塩分計(4)、パルスコーチ(5)、FAT.O.METER(4)、デジタル血圧計(2)、オーガズモデル(子宮モデル)(1)、乳がん触診モデル(1)、歯模型(14)、その他
- ・基礎・成人・老年看護演習室：成人：ICU用ベッド(1)、成人用ベッド(1)、手術台(1)、集中監視モニターセット(1)、ベッドサイドモニター(2)、心電計(2)、救急蘇生人形(2)、輸液ポンプ(2)、蘇生訓練用生体シミュレーター(1)、人工呼吸器(1)、AED レサアントニートレーニング M(1)気管内挿管練習人形(1)、気管内シミュレーター(1)、成人用ベッド(17)、床頭台(20)、ワゴン(22)、オーバーヘッドテーブル(20)、車椅子(9)、入浴介護モデル(1)、看護実習モデル(10)、静脈採血モデル(13)、体圧測定器(3)、装着式上腕筋肉注射シミュレーター(1)、グリッターバッグ(4)、装着式浣腸・導尿モデル(14)、ストレッチャー(5)、殿部筋肉内注射モデル(5)、洗髪車(3)、CPS 実習ユニット(2)、高齢者体験セット(7)、装着型男性導尿シミュレーター(4)、口腔ケアモデル(5)、その他

### ■助産学専攻科

- ・助産学実習室、多目的演習を持っている。臨地実習に対応できるよう病院・診療所の分娩、助産所・自宅分娩、家庭訪問演習用の畳部屋を設置している。養成所指定規則の物品のほかに、リアルに演習ができるよう分娩介助助産モデルを有している。

さらに、助産に関連するマタニティスポーツ、東洋医学の演習ができるよう多目的演習室を有している。

○主な設備（ ）内は所有台数

- ・妊婦用：超音波診断装置(1)、母体総合シミュレーター(1)、フードモデル(1)、妊婦ジャケット(1)、受胎調節指導模型(5)、電動診察台(2)、診察台(1)、胎児ファントム 23週(1)、胎児ファントム 34週(1)、その他
- ・分娩用：分娩台(1)、助産演習総合モデルセット(1)、内診模型ファントム(6)、ワゴン(11)、分娩監視装置(2)、吸引機(2)、アクティブチェア(1)、その他
- ・褥婦用：乳房マッサージ練習模型(1)、受胎調節指導器具(1)、乳房解剖模型(3)、骨盤底筋肉模型(1)、胎盤模型(1)、児頭付き透明婦人骨盤模型(1)、乳がん触診モデル(1)、その他
- ・新生児用：酸素マスク(6)、蘇生バッグ(6)、新生児ベビー(6)、乳児ベビー(1)、挿管ベビ

ー(3)、ベビーベッド1、その他

**9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。**

- ア. 上記施設、設備についての維持、管理は、施設課が担っており適切に維持管理している。個々の実習設備は各学科で管理しており、問題があれば施設課と協議して対応する。
- イ. 通常の学内清掃は施設課の職員 2 人が担当するが、エレベーター、空調、消防設備、電話機器の保守点検は専門業者と委託契約を結び、関係法令を遵守し適切に維持、管理している。
- ウ. 図書館は 2 人の女性司書職員及び 1 人の男性職員で日常運営しており、平日は 19 時 30 分、土曜は 12 時までの開館時間に対応している。また、「岐阜医療科学大学図書館規程」に基づき「図書委員会」を設置し、図書館長が統括して管理運営に係る重要事項を審議している。
- エ. 情報サービスについては、「情報処理センター」を組織し管理運営に関する重要事項を審議している。

**(2) 9-1 の自己評価**

**■全般**

ア. 校地及び校舎の面積は表 9-1-5 に示すように大学設置基準を満たしている。

**表 9-1-5 校地、校舎面積**

校地面積	設置基準必要面積	校舎面積	設置基準必要面積
41,033.29 m <sup>2</sup>	9,600 m <sup>2</sup>	15,812.29 m <sup>2</sup>	10,181 m <sup>2</sup>

- イ. 教育研究施設・設備は大学設置申請及び設置計画変更申請に基づき整備を図ってきた。高度な実習用医療機器を備え、教育目的を達成するための施設・設備は整っている。
- ウ. 体育施設は校地用地との関係もあり広くはないが、グラウンド、6 号館東側教室、近隣の公共施設等の利用により課外活動は活発に行われている。
- エ. コンピュータ自習室は良く利用され、卒業研究やレポート作成等に役立っている。
- オ. 施設設備の維持・管理は各学科と施設課の調整により適正に行われている。

**■図書館**

- ア. 図書館は、放射線技術学科棟 2 階にあり学生が利用しやすい場所にある。医療関連の専門書・学術雑誌を中心に蔵書構成されており、特に、看護・臨床検査・放射線関係の資料が充実している。全書架開架式で、学生の利用が多い教科書・参考書・問題集は指定図書棚にまとめて配架するなど、利用者の利便性が図られている。閲覧スペースには 2 人掛けの座席と 6 人掛けの平机が設置され、利用者が状況に応じて使い分けできる環境となっている。AV コーナーにはパソコンと AV 機器が設置され、資料検索や視聴覚資料の利用、データベースを利用した文献検索や閲覧ができる。
- イ. 文献検索サイトを充実するためにデータベースのトライアルを実施したり、教員による専門書の購入選定を行うなど、利用者サービスの向上に向けた計画的な取り組みがなされている。

る。また、図書館間の相互協力制度を活用して、所蔵していない文献等の提供・依頼も活発に行われている。

**(3) 9-1の改善・向上方策(将来計画)**

- ア. 体育施設の充実は今後も重要事項であるが、校地も手狭な状況であることから、校地取得や施設整備予算化について、神野学園本部と調整しながら中期計画に盛り込んでいく。
- イ. 教育・研究設備については、医療技術の発展は目覚ましいものがあることから、老朽化対応、新規設備導入等を中期計画の中で予算化していく。
- ウ. 施設整備に関しては、適切に維持、運営されているが、経年変化を考慮しながら整備計画を年次計画化していく。
- エ. 図書館では電子ジャーナルの普及に伴い、洋雑誌から順にオンライン契約にシフトしていく方針である。

**基準9-2. 施設設備の安全性が確保されていること。**

**(1) 9-2の事実の説明(現状)**

**9-2-① 施設設備の安全性(耐震性、バリアフリー等)が確保されているか。**

- ア. 全部で8棟ある建物の耐震は、設計士の診断により、全て耐震基準を満たしている。(内3棟は平屋建てのため、除外)。また、アスベストの使用についても、全ての建物において不使用である。(双方とも文部科学省調査において報告済)
- イ. バリアフリー等については、表9-2-1「バリアフリー設置一覧」の通りであるが各建物の出入口について見直し、平成23(2011)年度中に改修工事を行う。

**表9-2-1 バリアフリー設置一覧**

棟名	玄関スロープ	エレベーター	身障者トイレ	階段手摺	誘導用ブロック	摘要
1号館	○※	○	○ (共用)	○	○	5階建て
2号館	×※	×		○	×	4階建て
3号館	○	○		○	○	4階建て
4号館	×※		×		×	平屋建て
5号館	×※	×	×	○	×	3階建て
6号館	×※		×		×	平屋建て
7号館	×※		×		×	平屋建て
寮	×※	×	×	○	×	4階建て

※印は平成23(2011)年度工事予定

- ウ. 薬品安全管理・廃棄物処理については「薬品安全管理・廃棄物処理委員会」を設け、「岐阜医療科学大学薬品安全管理・廃棄物処理要領」に基づき、安全管理、処理チェックを行なっている。
- エ. 放射線管理については、「放射線安全管理委員会」を設け、「岐阜医療科学大学放射線障害予防規程」に基づき安全管理を行っている。なお、年一回放射線管理状況報告書を文部科学省に届け出ている。

オ. 施設設備の保守点検は次の通りである。

①受変電設備

4箇所ある受変電設備及び各棟の分電盤等の点検を保守管理会社に委託し毎月1度の点検を行っている。又、3年に一度は学内を全停にして、高圧機器設備等の点検を行っている。

②空調機器

G.H.P(ガス式エアコン)1,3号館(屋外機44台)については空調機メンテナンス会社と委託契約を結び、オンコールサービス(故障時対応)はもとより、年1回全ての機器の運転状況をチェックし、不具合が見つければ部品交換等対処している。

4号館(講堂棟)の吸収式冷温水機については、G.H.P同様にメンテナンス契約を結び冷暖房切替え時2回、冷暖房運転中に2回、年に計4回の点検を行っている。

その他の棟のエアコン(電気式)については、メンテナンス会社に都度修理を依頼している。

③消防設備

全8棟について、年2回(1月、8月)に消防設備点検業者と委託契約を結び点検を実施している。1月(冬休み)は感知器の動作確認、消火器の点検、受信機盤等の目視点検を行う。又、8月(夏休み)は感知器の動作確認、消火器の点検はもとより、屋内消火栓の実放水試験、非常放送設備の確認等総合試験を実施する。

④井水濾過装置

本学の井水は飲用には使用せずに、雑排水(トイレ用)として使用しているが、保守点検は濾過機メーカーと業務委託契約を締結し4回/年の点検を実施し不純物等を取除き、P.Hも7に保って市水の基準をクリアしている。

⑤中和処理槽

本装置は実験用排水を中和し希釈して下水に放流する設備であり、処理槽のメーカーと委託契約を結び6回/年の点検を実施している。P.Hセンサー、ブローア装置、薬注ポンプ等の点検、硫酸、水酸化ナトリウムの補充等を行い、酸、アルカリ性の排水が流出しないように、中和処理を行って排水している。

⑥バルク設備(集中ガス供給設備)

7,000ℓのバルク(タンク)を2基所有しており、ガス納入業者と保守点検契約を結び、毎月1回のバルク点検と定期自主検査年1回(夏休み)を実施し、尚且つ4年毎に細密点検(蒸発器、弁類)を実施している。

⑦エレベーター設備

3基のエレベーター設備を有し、エレベーターメーカーとの業務委託契約を締結し、閉じ込め故障、着床不良、使用不能故障等の故障対応と6回/年定期点検、毎月1回のリモート点検(専用電話回線による遠隔点検)を実施している。

⑧集中監視盤

本装置は、4号館(講堂棟)空調機遠隔制御、及び学内各所から夫々の故障警報(電源断、水槽水位異常、ガスバルク故障等)を表示、警報するシステムで、ビルメンテナンス会社と業務委託契約を結び、年2回保守点検を実施している。

⑨正門ゲート・大型車両入退出システム

正門からの構内道路が坂道でカーブしていて且つ、幅員が狭いため大型車輛(バス等)とのすれ違いが困難なため信号機を設置して、大型車輛入退場時は片側通行としている。又、正門から車道への飛び出しを防ぐため、遮断機(ゲート)と交通指導員を配して学生、教職員の安全確保に努めている。システム設置メーカーと業務委託契約を結び年4回の保守点検を実施している。

カ. 飲料水について

飲料水は関市の上水を使用している。市水の貯水槽は全部で6基あり、年1回(夏休み)水槽清掃業者による清掃・点検を行っている。又、自主的に月に1度水槽周り(ポンプ設備も含む)の点検を実施している。薬注ポンプによる薬剤(次亜塩素酸ソーダ)の自動注入を実施して、市水の残留塩素濃度が下がらない様管理している。

ク. 図書館内はバリアフリー対応となっている。

ケ. 一部の書架を除く13台の書架と高層書架、移動書架には耐震対策が施され、万一の災害に備えた整備がされている。また、足元誘導灯の設置など避難時の対策も講じている。

## (2) 9-2の自己評価

ア. 建物の耐震性、アスベストの残存については問題ない。

イ. 施設設備の保守点検は確実に行われており安全性が確保されている。

ウ. 放射線安全管理は確実に実施されている。

エ. 薬品安全管理及び廃棄物管理に関しても確実に行われている。

オ. バリアフリー対策について、校内は一部旧校舎を除き実施されている。

## (3) 9-2の改善・向上方策(将来計画)

ア. 施設設備の安全性については現在のところ問題ない。今後も、中期設備保守計画に基づき点検及び維持補修対策を行っていく。また、放射線安全管理、薬品安全管理に関しても法令及び学内規程に従い、確実に実施していく。

イ. バリアフリー等身障者対策について、校内通路工事を平成23(2011)年8月に実施する。旧校舎については今後の施設計画を勘案しながら実施していく。

## 基準9-3. アメニティに配慮した教育環境が整備されていること。

### (1) 9-3の事実の説明(現状)

#### 9-3-① 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

ア. 校地としては、入口にバスケットコートと庭園が、またキャンパス中央には1,300㎡の広さの中庭と屋根付きの休憩所が整備され、学生の憩いの場所となっている。

イ. 平成21(2009)年度に文部科学省への大学設置計画変更協議により拡張した学生食堂を平成22(2010)年度、本格整備を行った。内容として、フロア拡大、内外装の一新、自動ドア設置・空調設備更新、テーブル・イスの更新、屋外テラスの設置、厨房フロア更新厨房設備増強などを行った。現在、昼食時や休憩時間は多くの学生で賑わっている。

ウ. 中庭の芝生に、休憩テーブル・イス及び通路を整備し、良く利用されている。

エ. 寮の外壁補修工事及び室内壁の防音工事、塗替え工事を行い、また、室内家具を更新

し居住性・利便性の向上を図った。寮生からの評判も良く、現在、全 96 室中 95 室とほぼ満室である。(平成 23(2011)年度は入居希望者の抽選を実施)

オ. 学内無線 LAN スポットを 29 カ所設け、学内のどこにいてもインターネットに接続できるようにした。

ク. 図書館は、天井が高く南壁面はガラス張りの構造で圧迫感のない広々とした作りとなっている。室内は白を基調とした落ち着いた配色でまとめられ多くの蛍光灯も設置されているので、明るく快適な環境である。また 34 基の空調機器で快適に過ごせる室内温度環境を提供し、床面には絨毯を敷いて防音効果を高め、利用者が落ち着いて勉学できるように配慮してある。

ケ. 図書館の 132 席の閲覧席は、2 席ずつパーティションで仕切られた座席とグループ学習に適した 6 人掛けの平机とで構成され、状況に応じて利用できる。

### (2) 9-3 の自己評価

- ・平成 21(2009)年度までは、大学設置計画予算にない設備投資は不可能であったためほとんど実施できなかったアメニティ関連工事を、平成 22(2010)年度は積極的に実施し施設設備の充実に努めた。これら施設・設備は学生に積極的に利用されている。

### (3) 9-3 の改善・向上方策(将来計画)

- ・専用体育館やテニスコートといった体育施設の充実については、校舎整備計画、土地取得計画など総合的な中期開発計画の中で展開していく。

#### [基準 9 の自己評価]

ア. 教育施設は大学設置基準及び各学科・専攻科の教育内容に照らし、問題ない。また、施設設備は適切に維持管理されている。施設の安全性についても、耐震性、アスベスト等問題はなく、放射線、薬品安全管理上の措置も適格に行われている。

イ. アメニティの向上対策は情報化サービスや寮・食堂整備等を進めてきており、学生の満足度も向上してきている。

#### [基準 9 の改善・向上方策(将来計画)]

ア. 現在の教育環境施設は整えられ、また適切な保守管理が行われている。しかしながら短期大学時代からの校舎の老朽化、運動施設の整備、駐車場の拡張など解決すべき課題も多くある。これらは多額の予算が必要なこと、校地の拡張問題等があり、すぐに対応できない問題も多いが、学園本部との調整や中期計画を通じ実現していく。

イ. 教育施設の面からは多くの実習用施設設備が必要であり、老朽化や修繕対応に加え、技術革新が進む医療現場で使われている機器を整備していく必要がある。各学科で設備導入計画をまとめ中期計画に盛り込みながら充実していく。